■■メールマガジン「静岡県防災」第30号■■

～ 富士山は火山ハザードマップどおりには噴火しない！？ ～

〇「ドリルマップ」と「可能性マップ」

富士山における火山ハザードマップを目にした方も多いかと思いますが、このハザードマップには「ドリルマップ」と「可能性マップ」の二種類があることはご存じでしょうか？

ハザードマップの作成にあたっては、過去の噴火履歴をもとに、噴火の規模や火口の位置などの条件を仮定し、現象の影響が及ぶ可能性のある範囲を想定しました。

このうち個々のケースについて、噴火現象の影響が及びうる範囲を描いた分布図を「ドリルマップ」と言い、一方で、「可能性マップ」とは、ドリルマップを重ね合わせて、噴火現象の影響が及びうる範囲や最短到達時間を網羅的に示したマップです。

火山のハザードマップを見る際には、一度の噴火で、塗られた範囲の全てに噴火現象による危険が生じるわけではないこと、また、その到達時間は場所によって大きく差があることに注意が必要です。

令和５年３月に公表された「富士山火山避難基本計画」においても、一度の噴火で富士山の全周囲が一斉に被災するものではなく、避難が必要な範囲は限定されるとしており、これを前提に、富士山周辺の市町では、地域ごとの具体的な避難計画づくりに取り組んでいます。県では、今後、地域ごとの具体的な避難について、市町と連携しながら、地域の皆様へ説明する機会を提供してまいります。

〇富士山噴火の例

・貞観噴火（８６４年から８６６年）は、山頂から北西方向に約 10 キロ離れた斜面で発生した大規模な割れ目噴火で、膨大な量の溶岩が噴出し、北麓にあった「せのうみ」の大半を埋没させ、免れた部分が現在の西湖、精進湖になります。
・宝永噴火（１７０７年）は、山頂から南東斜面が噴火し大量の火山灰が噴出しました。

県民へのメッセージ　富士山ハザードマップの改定について
https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/030/022/kenminhe.pdf

富士山火山避難基本計画について
https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/kazanfunka/fujisankazan/1053271.html